

小田原市・足柄下地区 資源化検討会 第5回

日時 平成22年1月20日(水)

午後2時～4時

会場 湯河原町役場分庁舎 6階 大会議室

2 報告

(3) 第4回資源化検討会での質疑事項

町田市の生ごみリサイクルについて

町田市では、業務用生ごみ処理機を使って、家庭から排出される生ごみの減量化、資源化を推進しています。

町内会、自治会、団地アパートなど、10世帯上で構成される団体に、市が業務用生ごみ処理機を貸与し、その団体が業務用生ごみ処理機を利用して、家庭から排出される生ごみの堆肥化を行い、できた堆肥を地域で使うよう努めています。

業務用生ごみ処理機を借りる団体は、市が無償で借りられる設置場所を確保し、市は、業務用生ごみ処理機の設置費用、電気料、メンテナンス費用等を負担しています。



仙台市の生ごみリサイクルについて

(1) 乾燥生ごみと野菜等の交換制度

電気式生ごみ処理機で処理された乾燥生ごみを野菜やごみ減量・リサイクルグッズと交換する制度。

野菜と交換する場合は、乾燥生ごみ1kgにつき100円相当の新鮮野菜と、リサイクルグッズと交換する場合は、乾燥生ごみ1kgにつき、スタンプ1個がスタンプカードに押印される。

(2) 対象となる乾燥生ごみ

- ・乾燥型電動生ごみ処理機で処理したもの
- ・家庭から出た生ごみを処理したもの
- ・異物、腐敗のないもの

(3) 回収場所

市内21か所(各区野菜市、各環境事業所、市内10カ所の市民センター、仙台市リサイクル推進課)

2 報告

(4) 生ごみ、剪定枝の リサイクルに関する意見・提案

生ごみのリサイクルに関する意見・提案(1)

- ◆ 公園など、地域に生ごみ処理機器などを設置し、生ごみの堆肥化に関心がある人が生ごみを持っていけるようにする
- ◆ 行政が生ごみの堆肥化に関する情報提供を行う
- ◆ 生ごみのリサイクルにあたっては、臭いの防止のため、一度茹でてから排出することが必要
- ◆ 生ごみのリサイクルによる経済効果や環境負荷の低減などを住民へ分かりやすく説明することが重要
- ◆ 事例から堆肥化施設は、費用対効果や継続性に課題がある
- ◆ 生ごみリサイクルに住民や食品関連事業者が一緒に取り組むことで、堆肥の活用の面で、農家の理解と協力が得られる

生ごみのリサイクルに関する意見・提案(2)

- ◆まず、食品関連事業者が食品リサイクル法を徹底し、その後、家庭系の生ごみの堆肥化に取り組んでいく
- ◆生ごみのリサイクルにあたっては、住民意識の醸成、農業関係者との連携、最小限のコストで行うことが重要
- ◆生ごみの堆肥化にあたっては、その安全性を確保するために、検査体制を整備することが必要

剪定枝のリサイクルに関する意見・提案

- ◆ 剪定枝は、チップ化し、森の中の遊歩道に撒く
- ◆ 剪定枝は、地域単位での堆肥化、チップ化(雑草防止剤、マルチング材)、樹下での自然処理と段階的に実行し、少なくしていくことが必要
- ◆ 剪定枝のリサイクルにあたっては、農業従事者などと協力していくこと

2 報告

(5) 生ごみ、剪定枝のリサイクルに関する アンケート調査(速報)

調査概要

1 調査目的

生ごみ、剪定枝のリサイクルに対する住民意識の把握
生ごみ、剪定枝のリサイクルの手法を検討するうえでの参考

2 調査方法

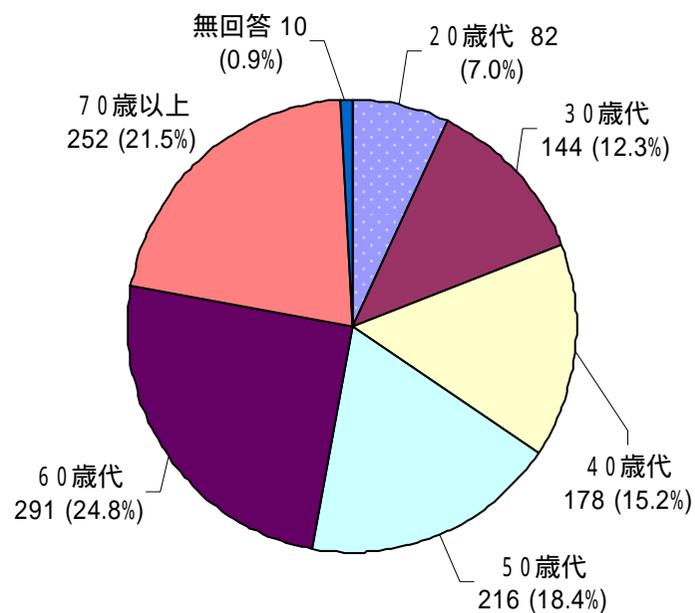
調査地域 小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町
調査対象 20歳以上の男女
対象者数 3,000人
抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
調査方法 郵送調査方式(郵送による配布、回収)
調査期間 平成21年10月9日～平成21年11月6日

3 回収結果

郵送数	3,000	非該当数	21
回収数	1,174	無効票数	1
有効回収数	1,173	有効回収率	39.4%

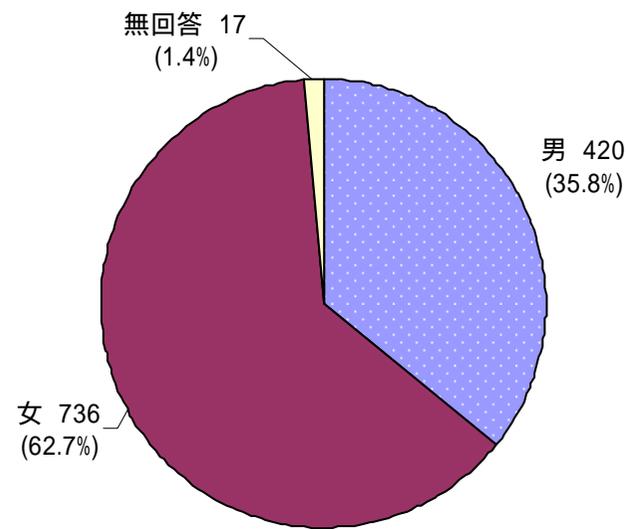
調査結果(回答者)

n=1,173



【年代】

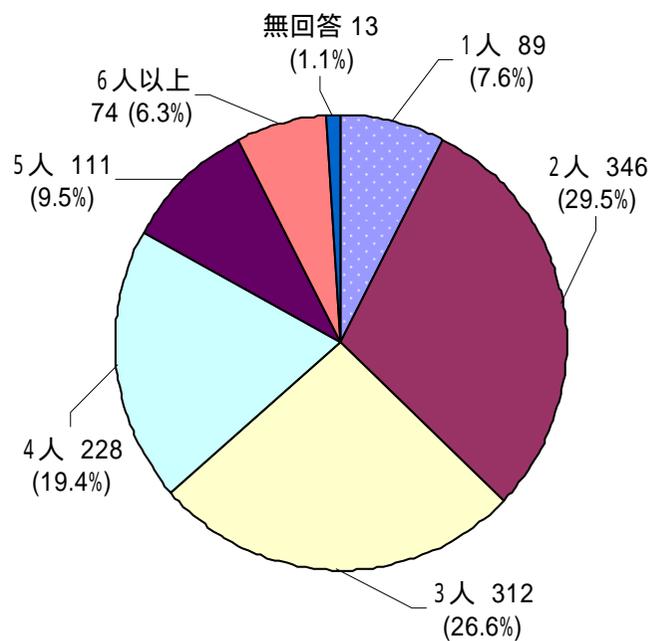
n=1,173



【性別】

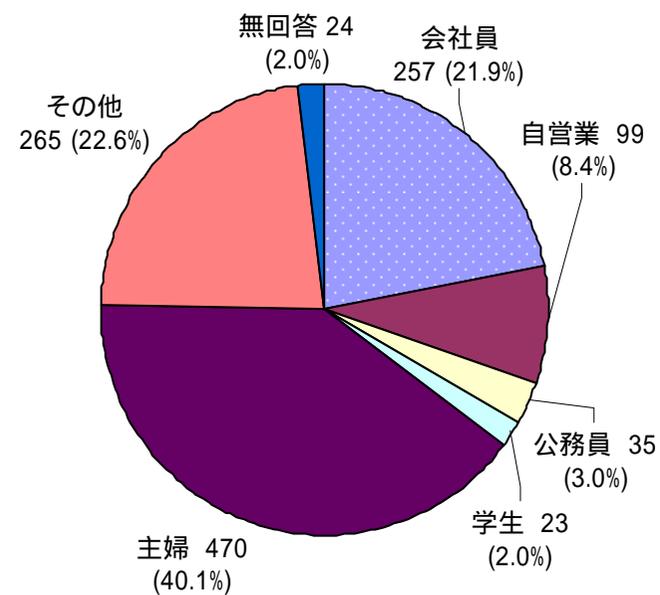
調査結果(回答者)

n=1,173



【世帯数】

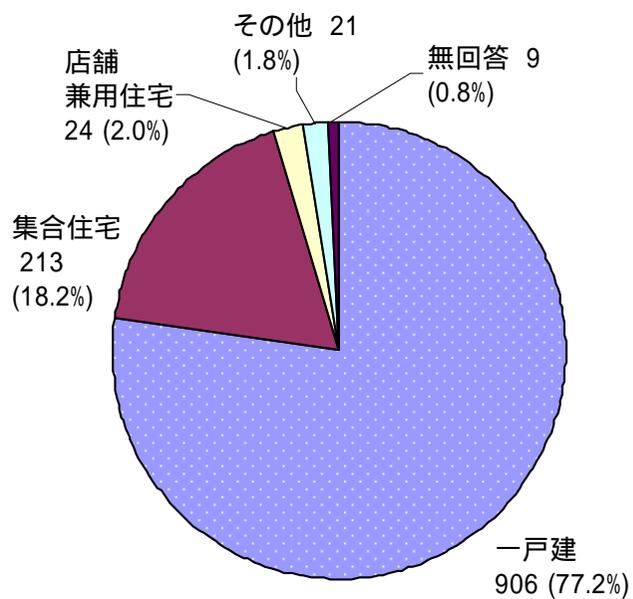
n=1,173



【職業】

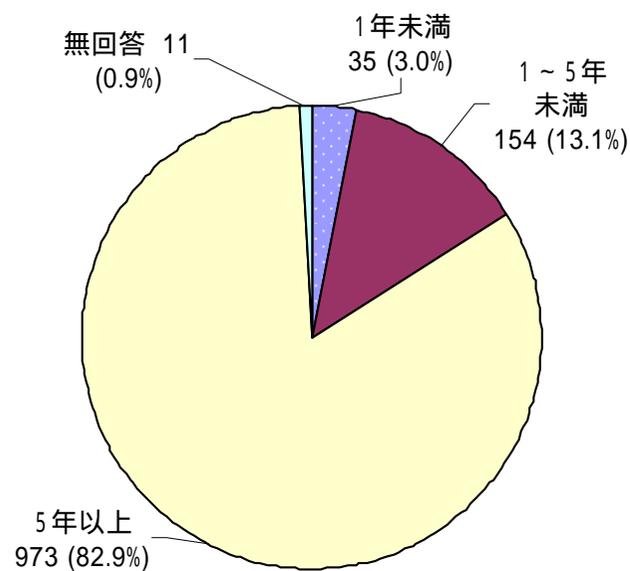
調査結果(回答者)

n=1,173



【住居形態】

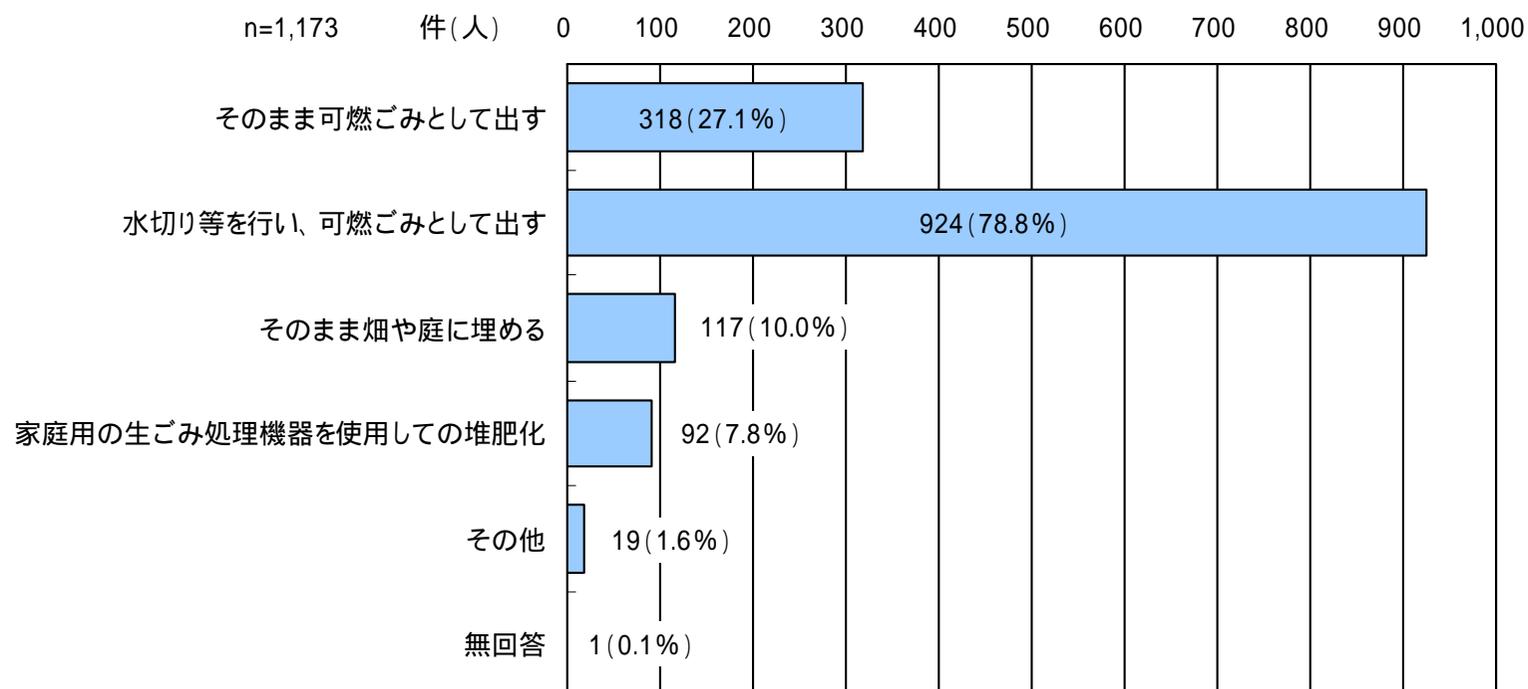
n=1,173



【居住年数】

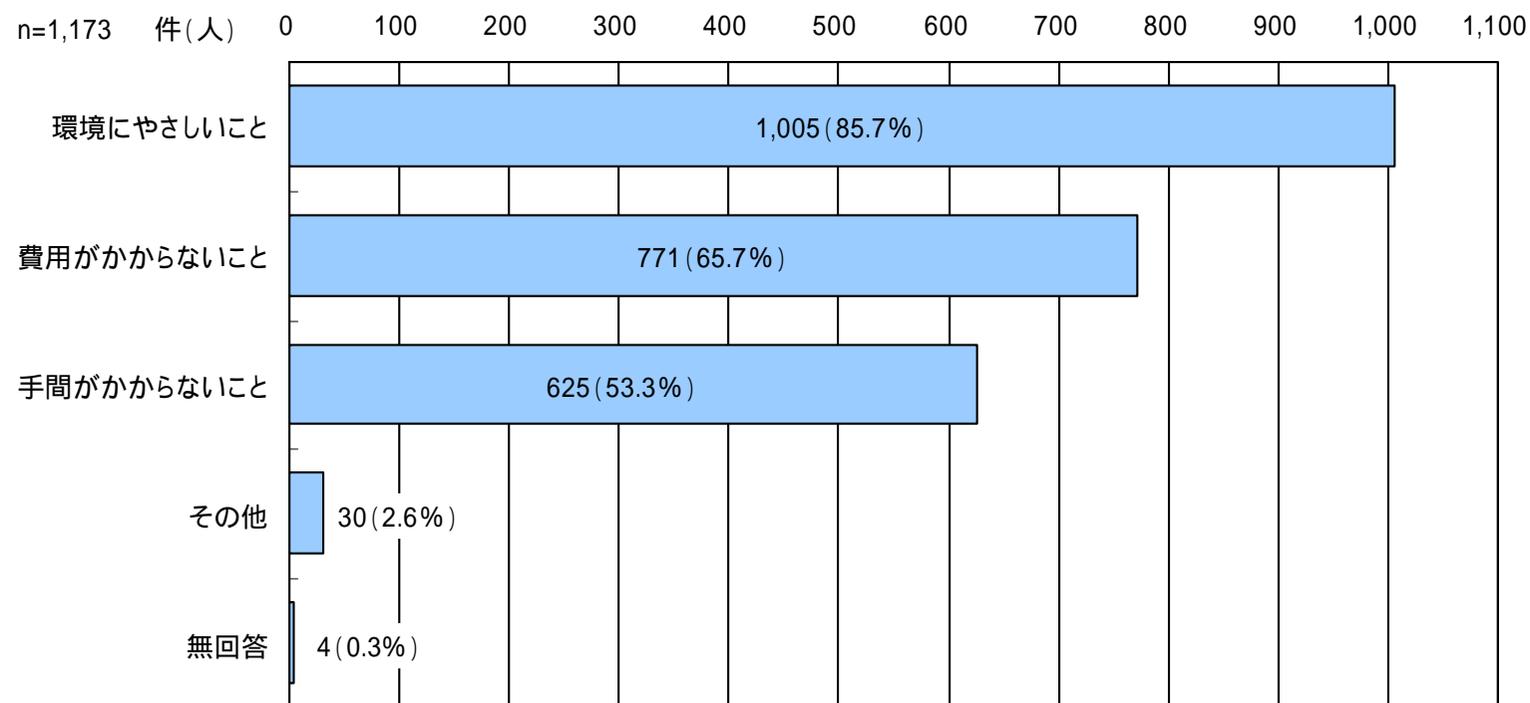
調査結果(生ごみ)

Q1. 現在、ご家庭の生ごみをどのように処理、もしくはリサイクルされていますか。(いくつでも)



調査結果(生ごみ)

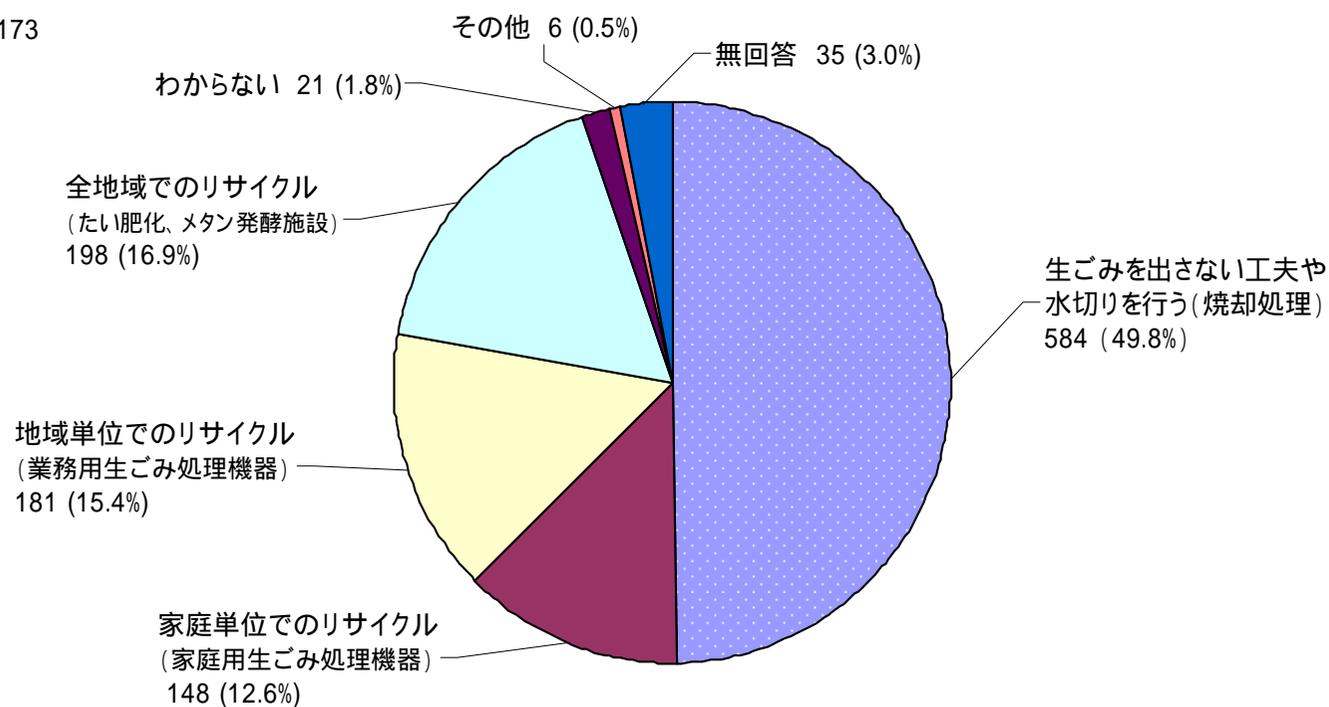
Q2. 生ごみの処理やリサイクルに取り組むにあたって、大切だと思うことは何ですか。(いくつでも)



調査結果(生ごみ)

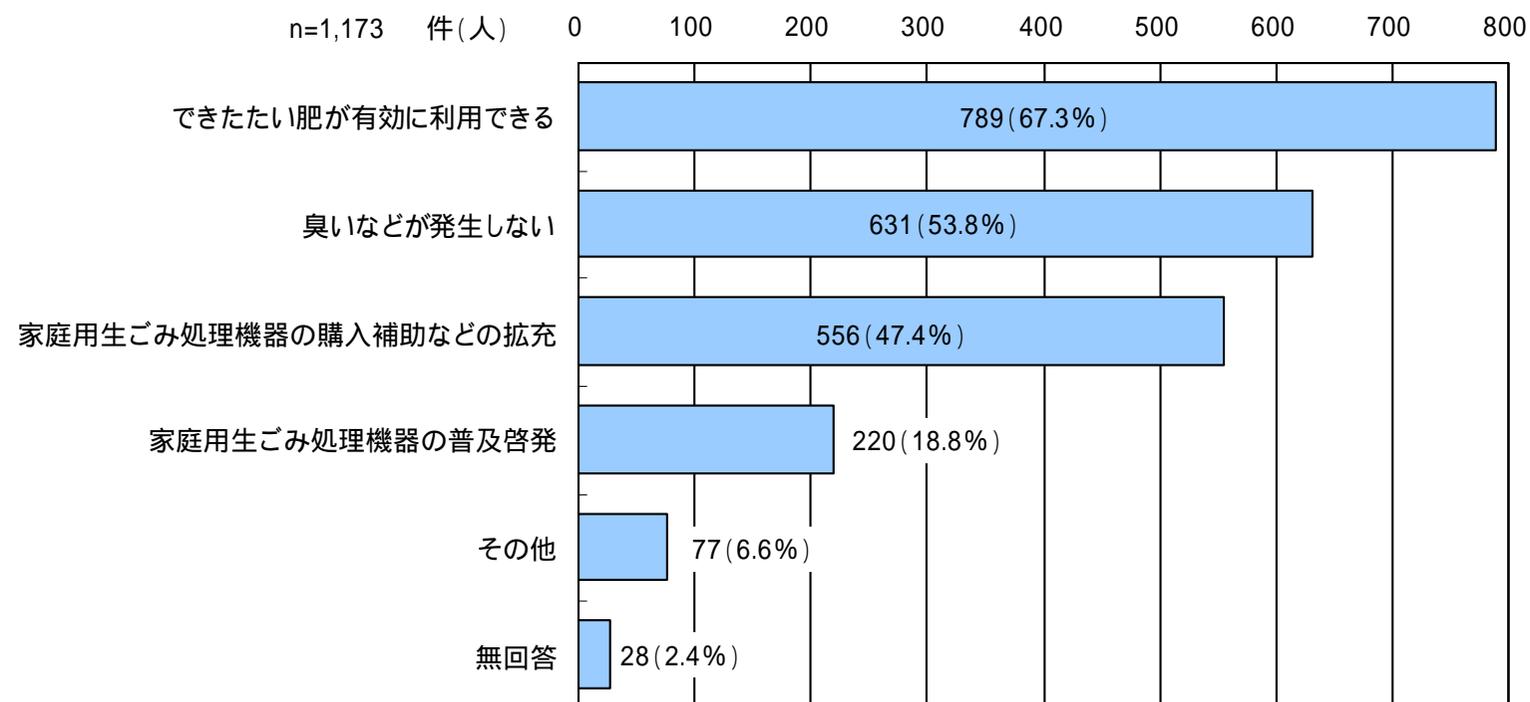
Q3. 生ごみの処理やリサイクルに効果的と思う取り組みは何ですか。
(1つだけ)

n=1,173



調査結果(生ごみ)

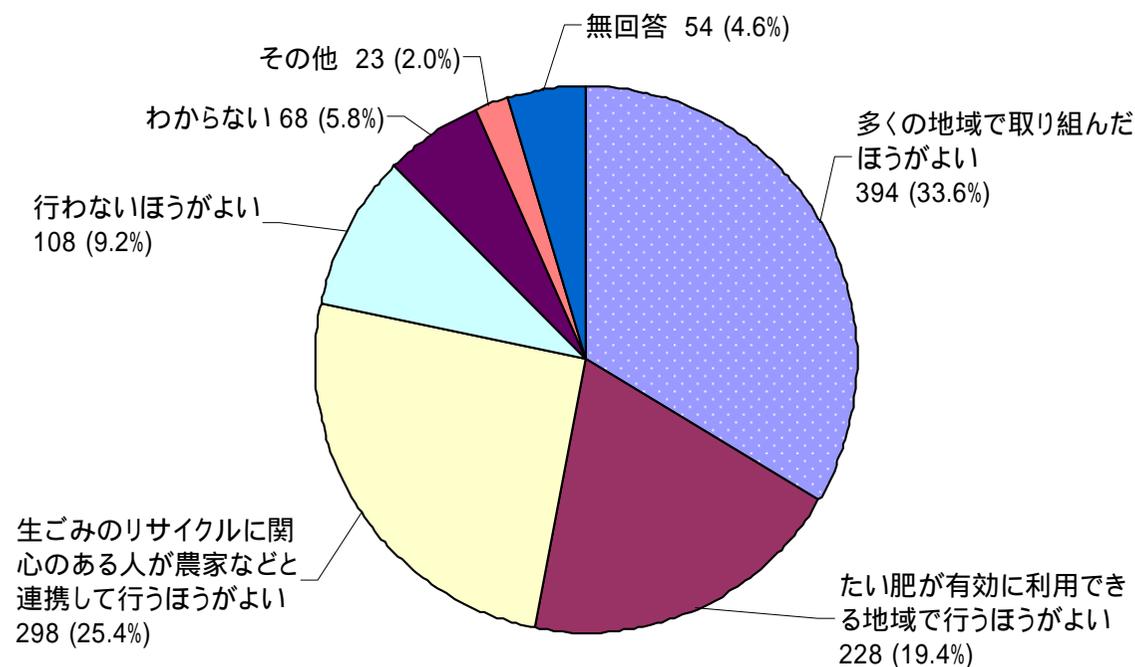
Q4. 家庭用生ごみ処理機器を使用して、生ごみから堆肥を作るリサイクルについて大切だと思ふことは何ですか。(いくつでも)



調査結果(生ごみ)

Q5. 地域で業務用生ごみ処理機を使用して、生ごみから堆肥をつくるリサイクルについて、あなたの考えに近いものは何ですか。(1つだけ)

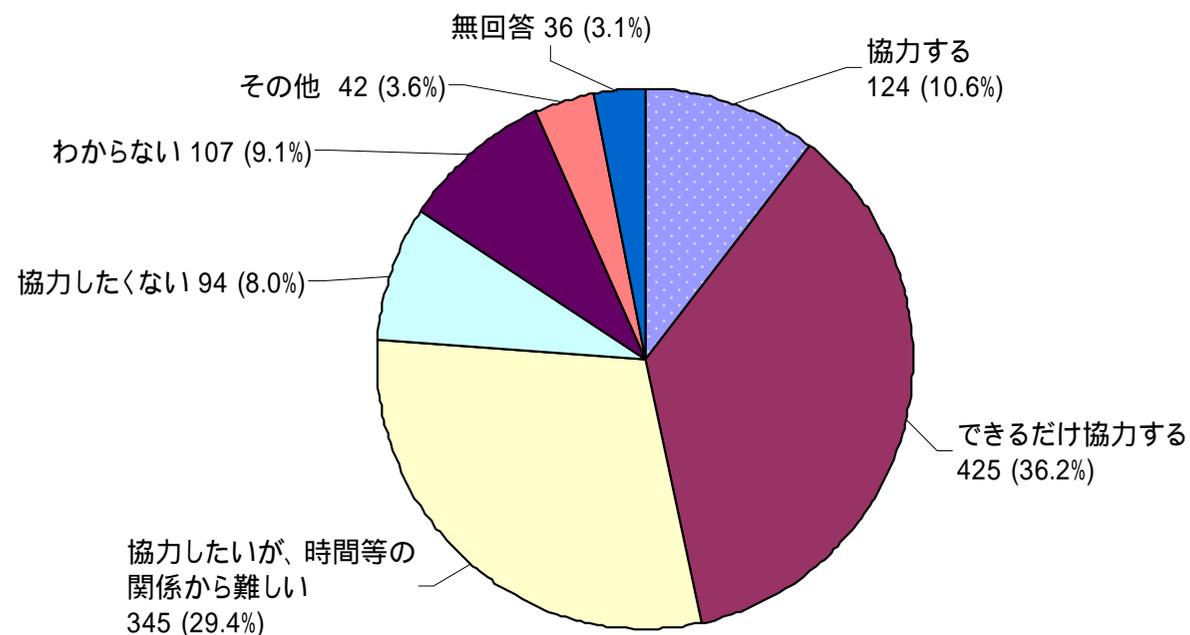
n=1,173



調査結果(生ごみ)

Q6. 地域で業務用生ごみ処理機を使用して、生ごみから堆肥をつくるリサイクルを行った場合、当番などに協力できますか。(1つだけ)

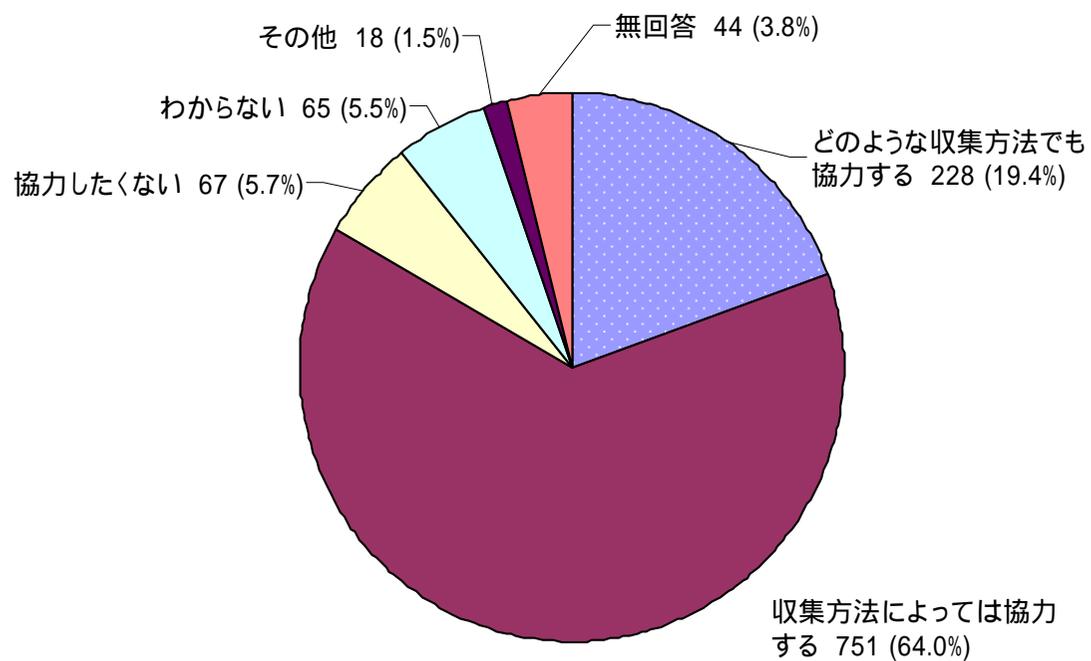
n=1,173



調査結果(生ごみ)

Q7. 生ごみを分別収集することになった場合、生ごみの分別にはどの程度協力していただけますか。(1つだけ)

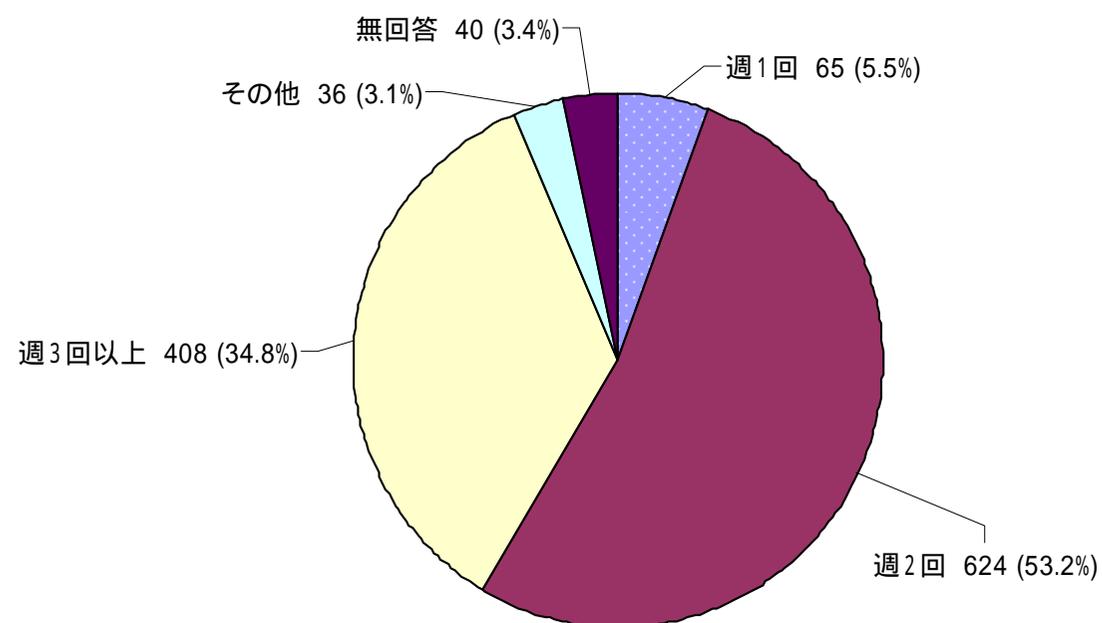
n=1,173



調査結果(生ごみ)

Q8. 生ごみの分別を行った場合、生ごみの収集は何回必要だと思いますか。
(1つだけ)

n=1,173



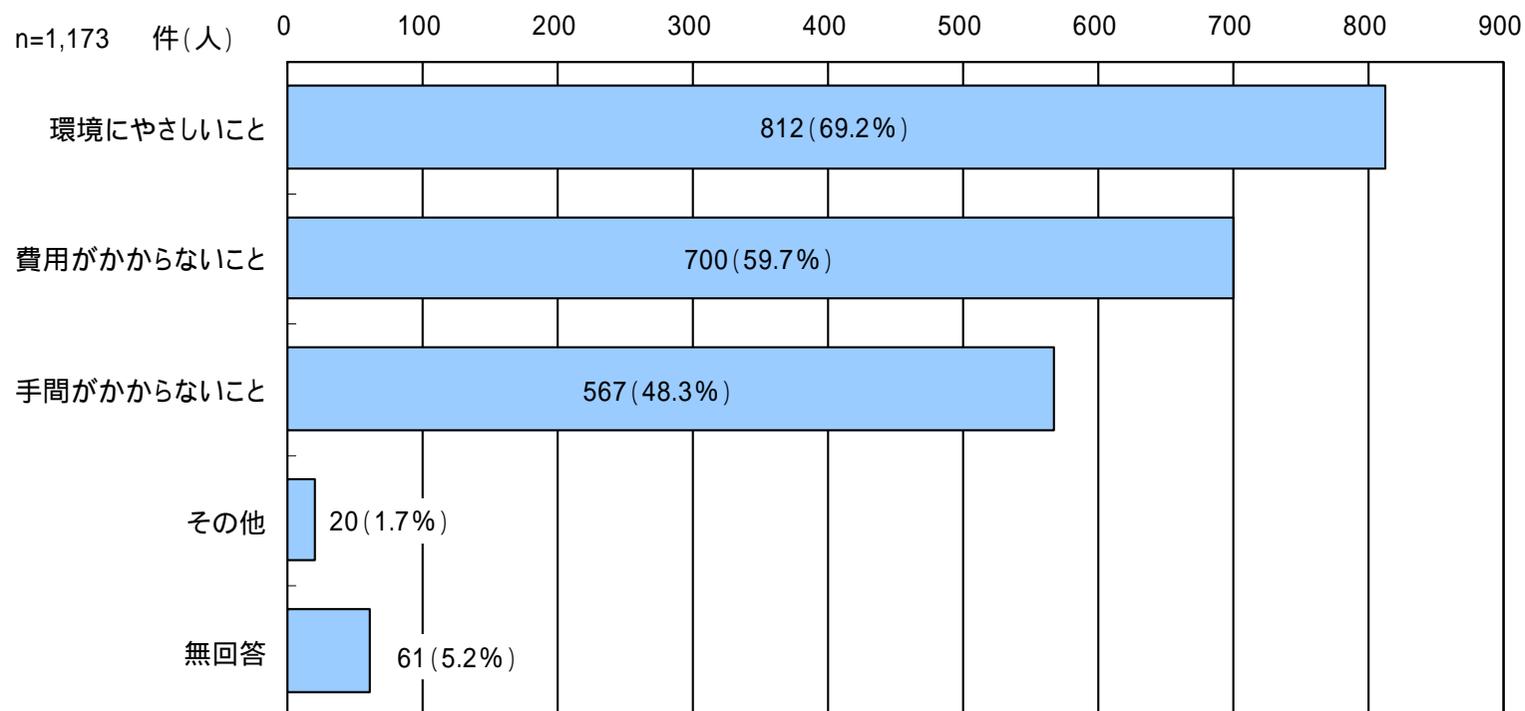
調査結果(生ごみ)

Q9. 生ごみの資源化についてのご意見等がありましたら、ご自由にお書きください(1つだけ)

(資料2参照)

調査結果(剪定枝)

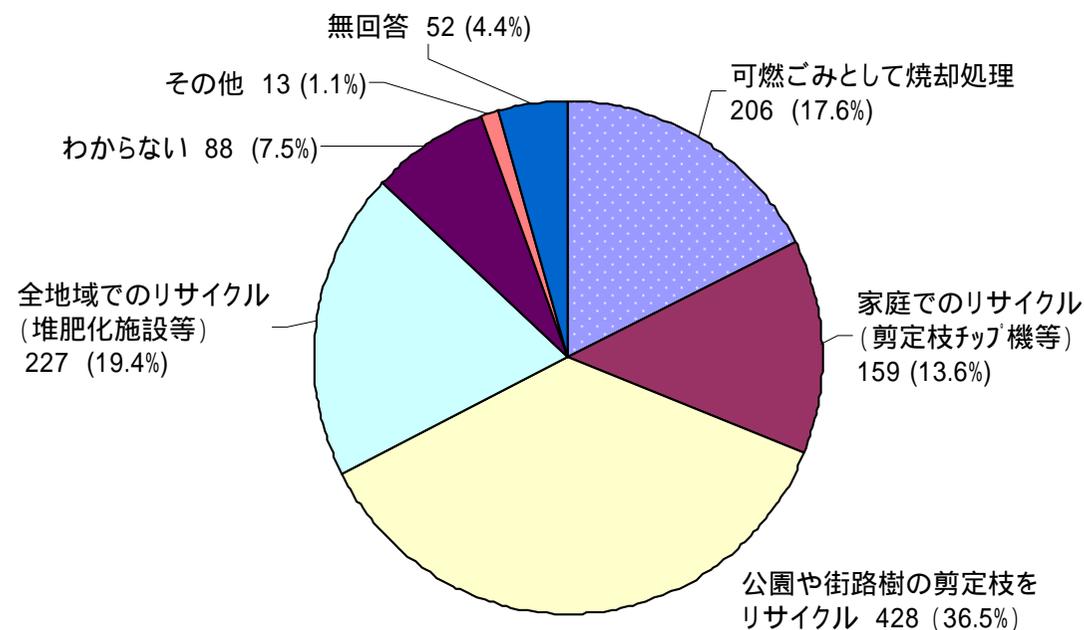
Q10. 剪定枝のリサイクルに取り組むにあたって、大切だと思うことはなんですか。(いくつでも)



調査結果(剪定枝)

Q11. 剪定枝の処理やリサイクルについて、あなたの考えに近いものは何ですか。(1つだけ)

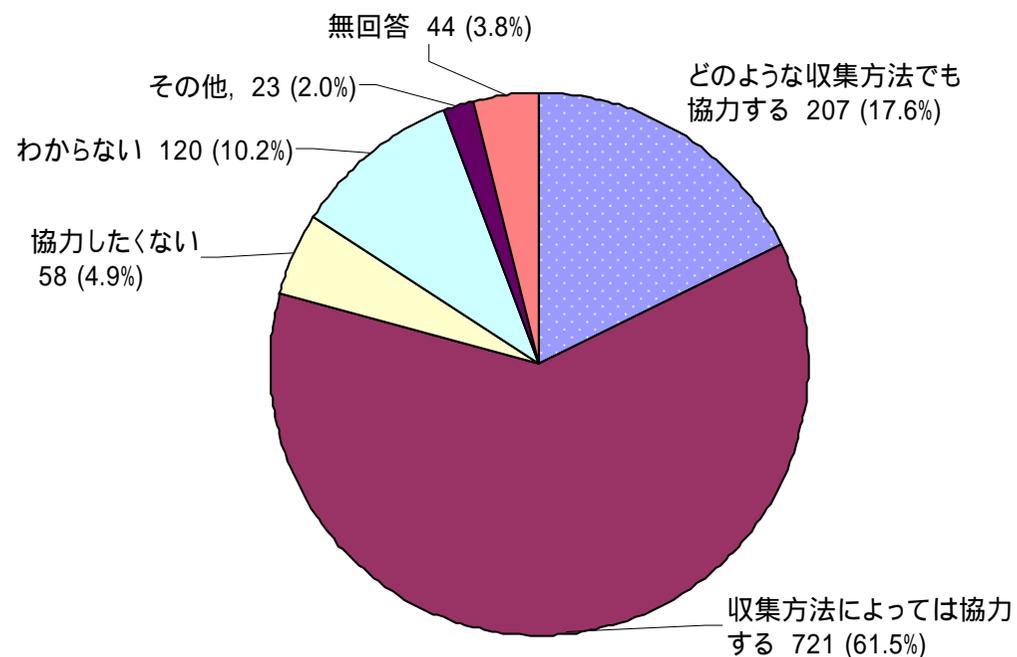
n=1,173



調査結果(剪定枝)

Q12. 剪定枝を分別収集することになった場合、剪定枝の分別にはどの程度協力していただけますか。(1つだけ)

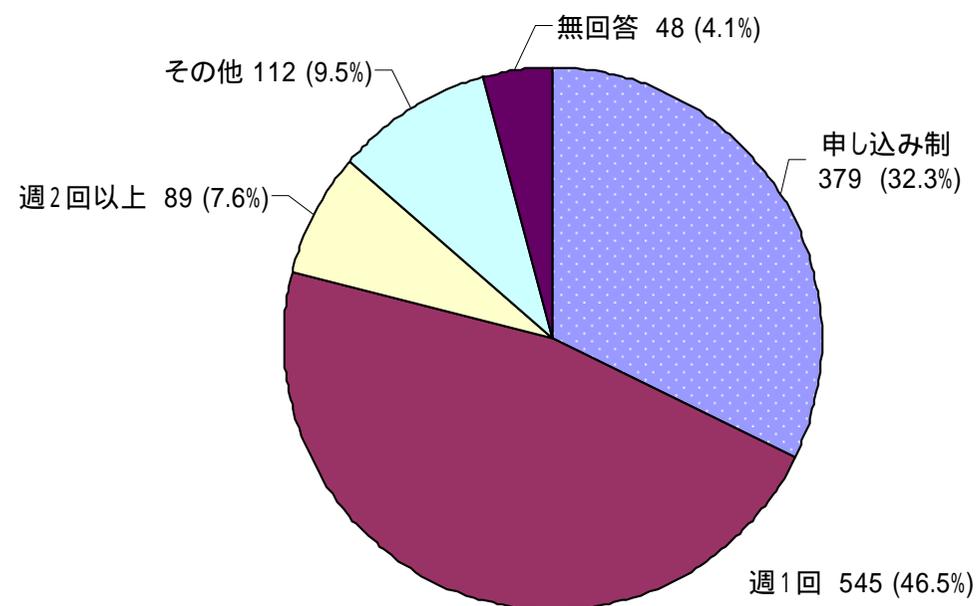
n=1,173



調査結果(剪定枝)

Q13. 剪定枝の分別を行った場合、剪定枝の収集は何回必要だと思いますか。
(1つだけ)

n=1,173



調査結果(剪定枝)

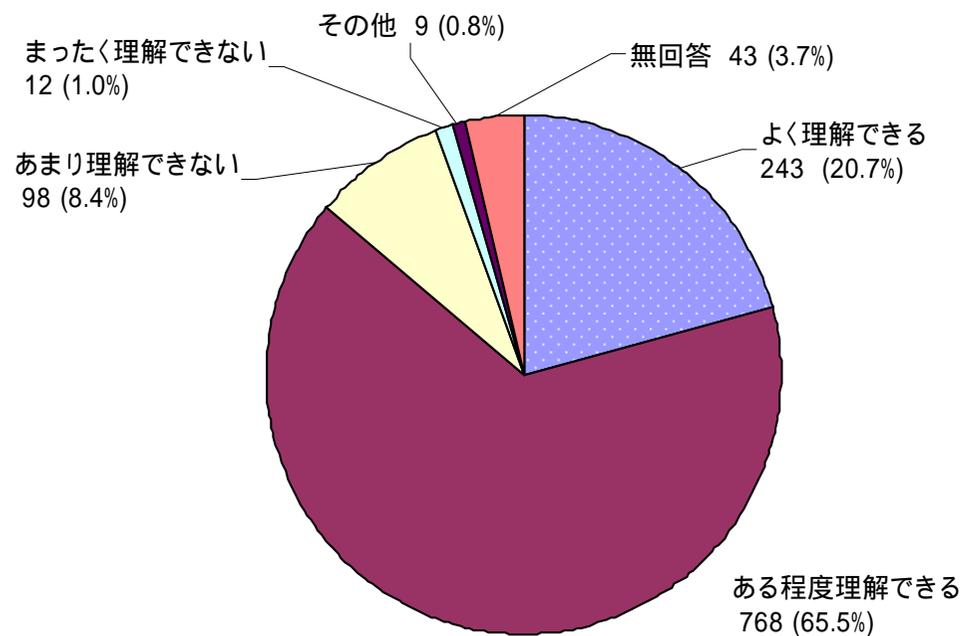
Q14. 剪定枝の資源化についてのご意見等がありましたら、ご自由にお書きください(1つだけ)

(資料3参照)

調査結果(参考)

Q15. ごみ処理広域化についてどのようにお考えですか。
(1つだけ)

n=1,173



調査結果(参考)

Q16. ごみ処理広域化について、ご意見等がありましたら、ご自由にお書きください(1つだけ)

(資料4参照)

3 議題

- (1) 生ごみのリサイクル手法の検討
- (2) 剪定枝のリサイクル手法の検討

資源化検討会の目的(第1回資料から)

現在のごみ処理に求められているものは・・・

- 天然資源の節減
- 地球温暖化の防止
- 環境保全対策
- リサイクルの推進
- ごみ処理経費の縮減

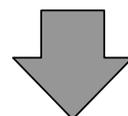
ごみ焼却量、最終処分量の削減

資源化検討会の目的(第1回資料から)

ごみ焼却量、最終処分量の削減には・・・

➡ 可燃ごみの約半分を占めているといわれる
生ごみ、剪定枝のリサイクルが課題

広域ごみ処理に適した生ごみ、剪定枝の
リサイクル手法について調査検討を行う



ごみ処理広域化協議会会長へ報告

検討にあたってのケース分類

ケース	範囲と手法	概要
ケースA	焼却処理	・現在のまま
生ごみ	ケースB 小さな地域での堆肥化 (家庭、事業所、地域)	・生ごみの分別収集はしない(可燃ごみとして収集) ・家庭、地域単位での生ごみの堆肥化を推進 (家庭用生ごみ処理機器、業務用生ごみ処理機)
	ケースC 大きな地域での堆肥化	・全地域を対象として生ごみを分別収集 ・堆肥化施設での生ごみの堆肥化
	ケースD 大きな地域での バイオガス化	・全地域を対象として生ごみを分別収集 ・バイオガス化施設での生ごみのバイオガス化
剪定枝	ケースE 小さな地域での チップ化と堆肥化	・剪定枝の分別収集はしない(可燃ごみとして収集) ・家庭、地域単位での剪定枝のチップ化、堆肥化を推進 (剪定枝チップ機、公園などに堆肥場等を設置)
	ケースF 大きな地域での チップ化と堆肥化	・全地域を対象として剪定枝を分別収集 ・堆肥化施設での剪定枝の堆肥化

表 検討にあたってのケース分類

各ケースの特徴(ケースA～D)

ケース	範囲と手法	特徴
ケースA	焼却処理	
生ごみ	ケースB 小さな地域での堆肥化 (家庭、事業所、地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみを発生・排出させない意識づけ ・生ごみのリサイクル量は少ない ・費用が最も少ない(ケースB～Dのうち) ・取り組みの普及、持続性に課題
	ケースC 大きな地域での堆肥化	<ul style="list-style-type: none"> ・分別の協力率は約50% ・生ごみのリサイクル量は多い ・生成された堆肥の利用先の確保が課題 ・生ごみの高い分別精度が必要
	ケースD 大きな地域での バイオガス化	<ul style="list-style-type: none"> ・分別の協力率は約50% ・生ごみのリサイクル量は多い ・温室効果ガスの総排出量が最も少ない(ケースB～Dのうち) ・生成されたバイオガスの利用が容易 ・堆肥化ほど高い分別精度が求められない

各ケースの特徴(ケースA～D)

各ケースの特徴(ケースE、F)

ケース		範囲と手法	特徴
剪定枝	ケースE	小さな地域での チップ化と堆肥化	<ul style="list-style-type: none"> ・剪定枝を発生・排出させない意識づけ ・剪定枝のリサイクル量は少ない ・費用が少ない(ケースE、Fのうち) ・取り組みの普及、持続性に課題
	ケースF	大きな地域での チップ化と堆肥化	<ul style="list-style-type: none"> ・分別の協力率は約80% ・剪定枝のリサイクル量は多い ・生成された堆肥の利用先の確保が課題 ・剪定枝の高い分別精度が必要

各ケースの特徴(ケースE、F)



4 その他

今後の予定

回数	検討内容
第6回	生ごみ、剪定枝のリサイクル手法の協議・検討
第7回	報告書(案)の協議・検討
第8回	報告書の承認

次回(第6回)の日程

会場 湯河原町(予定)

日程	2月15日(月)	午後2時～4時
	16日(火)	//
	17日(水)	//